

1 演 題 「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」

2 講 師 静岡県教育センター 幼児教育推進室長 福井 孝子 氏

3 講演内容

(1) 学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について

- ・国の最新の動きでは、令和5年2月27日に中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」がこれまでの審議のまとめを出した。その中で幼児教育と小学校教育の接続の必要性や目指す方向性が挙げられている。
- ・幼児教育と小学校教育の接続は容易ではないが、だからこそ連携の必要性がある。
- ・幼児教育と小学校教育の接続の目指す方向性は、①架け橋期の教育の充実、②幼児教育の特性に関する社会や小学校などとの認識の共有、③特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援、④すべての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むための支援、⑤教育の質を保障するために必要な体制等、⑥教育の質を保障するために必要な調査研究等の6つが挙げられている。

(2) 目指す方向性「幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有」について

- ・幼児期の遊びを通した学びの特性に関する社会や小学校等との認識が十分ではないため、様々な研究や実践の成果に基づく知見を活用して幅広く伝え、遊びを通した学びの教育的意義や効果の共通認識を図る必要がある。
- ・幼児教育の基本は「環境を通して行う教育」である。環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしい関わり方を身に付けていくことを意図した教育である。難しさもあるが、活動においてどのような教育的価値を体得できるか、保育者はあらかじめ考えて保育していくことが大切である。
- ・幼児期は自分の興味関心に基づいて自分から身近な環境に関わっていくことによって学んでいく時期であり、その活動の最たるものが「遊び」である。「遊び」に内在する価値はいろいろあるが、何よりも今を十分に楽しんで遊ぶことが重要である。幼児教育において育みたい資質・能力も「遊び」を通しての総合的な指導により育まれている。
- ・保育者には「遊び」の中にどんな学びがあるか見通したり見取ったりする力、そしてそれを小学校の教員や地域に発信する力が求められる。

(3) 目指す方向性「架け橋期の教育の充実」について

- ・幼児教育施設と小学校は、要領・指針及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要である。そのために要領・指針の理解に基づいた教育課程の編成を幼児教育施設と小学校で協同して行っていく体制を整えていく。
- ・新しいことを始めるのではなく、それぞれの施設で保育者、教員が着実に要領・指針に基づいた教育を行っていくことが大事である。
- ・「架け橋期の教育の充実」は地域の実態に即してできるところから取り組んでいく。